

障害のある学生の成長につなげる支援のあり方

大沼 泰枝（香川大学 学生支援センター 准教授）

講師略歴

専門は臨床心理学、障害学生支援。障害者差別解消法が施行された 2016 年から、香川大学学生支援センターバリアフリー支援室で障害学生支援業務に携わっている。大学に勤務する前は、長野県の心理職として働いており（長野県立こども病院、長野県精神保健福祉センター、長野県立リハビリテーションセンター）、様々な病気や障害のある子どもや成人の支援に携わってきた。その経験から、障害のある学生の修学支援や学内連携のみならず、地域の大学間連携、障害のある学生の防災対策にも力を注いでいる。

プログラム概要

高等教育機関に在籍する障害のある学生が増加する中、2024 年の障害者差別解消法の改正により、全ての高等教育機関において合理的配慮の提供が義務化されました。これに伴い、各大学では障害のある学生への支援体制の整備が進められています。障害のある学生から様々な配慮の要望が寄せられる中、それらの支援が学生自身の成長にどのようにつながるのかについて、疑問を感じる場面もあるかもしれません。

本プログラムでは、まず大学における合理的配慮の目的を整理し、障害のある学生が社会に出る前に身につけておくことが望ましいスキル（自己理解、セルフアドボカシー）について学びます。次に、修学支援、防災対策、就職活動支援などの具体的な場面における対応について、架空事例を用いたグループワークを通して検討します。

最後に、グループワークの結果の共有およびディスカッションを行い、参加者全員で、障害のある学生の成長につなげる支援のあり方について理解を深めます。

準備物・事前課題

所属大学の障害学生支援体制の把握

主な受講対象者

障害のある学生の支援に関わる教職員

到達目標

1. 大学における合理的配慮の目的について説明できる。
2. 「障害のある学生の成長」という視点で、学生への対応を計画できる。